

「土砂くずれ」

神奈川県 厚木市立愛甲小学校 4年 ^{やまぐち}山口 ^{あおば}青葉

2年前の5月、ごう雨の夜私の家のうら山がくずれました。私の家はひ害はありませんでしたが、おとなりさんのウッドデッキが土の重さにたえきれず、土にうもれてしまいました。シャッターもこわれてしまいました。土砂くずれが起きたとき、大きな雷が起こったと思いました。そうしたら、雷ではなく土砂くずれでした。そこでおとなりさんとお父さんとお話しに行きました。そうして見に行ったら土砂で庭がうまっていました。それは、まるで土砂のプールでした。消防車も来て、大さわぎになりました。ですが、おとなりさんには、けが人はいませんでした。庭はすごいことになってしまいましたが、助かってよかったです。

次の日近所の人たち20人ぐらい来て土砂のじょきょ作業をしました。20人の近所の人たちは、自治会長さんのよびかけで集まった人たちです。そのみなで、バケツリレーで土砂をトラックに積み、となりの空き地にすてました。あれほどの土砂が20人のおかげで、きれいになりました。それを見て、ふだんの生活で、なかよくしているのだと思いました。大きな災害を受けてしまった時助けが求められる人を作らなきゃだめだと思いました。

その、うら山は、持ち主の、お寺さんによって、土砂くずれぼうしの工事がされました。石をいっぱい集め、積みかさね、はり金のようなもので固定し、階段形に工事されました。私の家もつつのようなものをうめこみその上にネットでこていしました。あれから、たくさん雨はふりましたが、土砂くずれは起こっていません。

工事がされるまで、私は雨がふるとこわくてしかたありませんでした。安心にくらすためには、災害にたいしてじゅんぴが必要だと思いました。「そなえあればうれいなし」という言葉をお母さんから聞きましたが、こういうことなんだと思いました。

あれから何回か工事されました。うら山だけでなく、となりの空き地も水がうまく流れるように工事がされました。土砂くずれが起きてから気付きましたが私が住んでいる所は、雨に弱い地いきのようです。

さきほど、災害に対してじゅんぴが必要だといいましたが、自分の地いきにあったじゅんぴをするためには、自分の地いきを知る事が大切です。もっと自分の地いきに関心を持っていきたいと思います。

この土砂くずれで学んだ事は、まず、自分の地いきを知る事、それは、土地の形だけでなく、昔自分の家の近くはなんだったかを知る、また、何が起きていたのか、土地のれきしを知る事だと思っています。そしてその土地にあったじゅんぴをする。それでも災害が起こってしまったら、普段の生活から地いきの人たちとふれあい、お話をしていつ何が起きても助けが求められる人を作る事だと思いました。1人の力は小さいですがなかのよい人たくさんの人たちの力は大きいと思います。私もこれからは、知って、じゅんぴして、助けあえる災害に強い地いきにしていきたいと思います。